## たかひこ通信

【今月の短歌】

八台の舞台を 皆が曳航す 町民総出 池田の祭り



部内資料 たかひこ通信 162号 2024年10月

池田町大字池田3089-4

薄井孝彦 Tel·Fax 0261-62-5093 mail:peace-ikeda@peach.plala.or.jp http://web-ariakesan.com/

米不足、その原因と打開の方向は · · · \*\*どころ池田町でも、一時、 \*\*が店頭からなくなりました。その原因と打開の方向を日本共産党の政策でお知らせします。

**米不足の原因は・・・**政府は、昨年の暑さによる収穫減、8月の南海トラフ地震臨時情により消費者が米の備蓄に走ったこと、及びインバウンドによる消費増の3っが要因と言っています。しかし、最大の原因は、「米の供給量が少なかった」ことです。

昨年度の米の収穫量は661万トンに対し、米の需要量は702万トンで、需要量が供給量を上回る状態でした。この事も影響し今年6月末の在庫量は156万トンと、この25年間で最低の在庫量でした。156万トンの在庫量のなかには、飲食店など外食・中食(店で買って家で食べる)の米も長期契約で多く含まれており、結果として店に出回る量が減り、店頭で米が買えない事態に至ったのです。

米不足の背景は・・・米の供給量が減ったのは、自民党政権による減反政策(1970年~2018年、稲作を止め転作すると奨励金を出す制度)で稲作削減を求めてきたこと及びその後の市場放任が原因です。その背景にはアメリカの食糧戦略(パン食を日本で増やす、アメリカの余剰農産物を買わせる)に屈服し、輸出大企業の利益を最優先した「農業切り捨て政策」を続けてきたことにあります。こうした政策の下で米づくりを止める農家が増え、稲作農家は1970年466万戸から2020年には約70万戸と85%も減少し、生産量も1970年1,253万トンから2023年661万トンと半減しました。今回の米不足は一過性のものではありません。政府の来年度6月在庫量は今年よりも少ない152万トンのため、来年も米不足が再燃する可能性はあります。

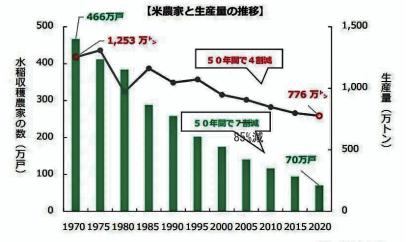
**米不足の打開の方向は・・・**国民の主食である米を市場競争にさらす政策では米の需給の安定は保たれません。生産を下支えする価格補償と所得補償、そのための農業予算の抜本拡充が必要です。「農業切り捨て」の根本にあるのは、「アメリカいいなり」「財界中心」の自民党政治です。国民・農業者が力を合わせ、「自民党政治」「自民党農政」を転換し、食糧・農業・農村に希望ある未来を切り開きましょう。

## 日本共産党の「食と農の再生」プラン

- ●「食糧自給率の向上」を国政の中心課題にすえる。
- ② EU諸国で実施されている価格・所得補償制度など を拡充し、農業の土台を国の責任で整える。
- ・農林水産予算の削減を止め、増額する。

## ≪私の思い≫

肥満気味なので、朝食を「パン食」から「ご飯」に切り替え、野菜を始めに食べるベジファーストに心掛けています。体調が良くなったように思います。野菜に含まれるカリウムが血液中の塩分を排出してくれます。



出典:農林水産省



農林水産予算は一貫して縮小いまや軍事費の1/3以下。 この流れの転換なくしては、農業の再生はあり得ない。